

## 頰椎症性脊髄症について

### 【症状】

脊髄症（加齡による脊髄の変性）の結果、脊髄を圧迫し横断性の脊髄症を生じると、手指の細かい動作（ボタン動作がしにくい、箸が持ちにくい、字が書きにくい）が困難となったり、手足がしびれたり、歩行障碍（歩行がぎこちない、脚がでにくい、脚がもつれる、階段で手すりが必要となるなど）が出ることもあり、重症化すれば排尿障害を来すこともあります。

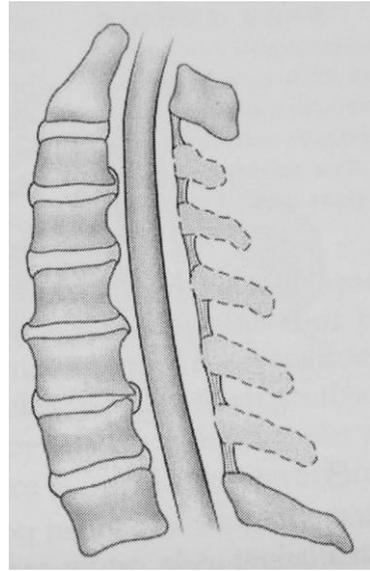
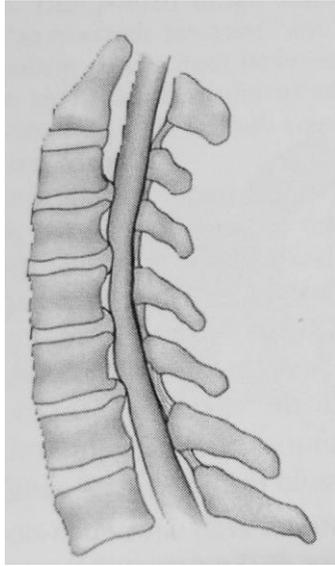
### 【原因】

もともと脊髄管の狭い人に起こりやすく、そこに椎間板の突出、骨棘、靭帯の肥厚などが加わり少しずつ症状として現れてきます（下図）。また転倒を引き金に急に悪化する場合があります。

### 【治療】

症状が手足の軽いしびれのみで日常生活で困っていなければ保存的治療で経過をみるのがほとんどです。保存的治療は理学療法（頰椎牽引）や薬物療法、装具療法などを行い症状の進行を防止しますがしびれは改善しにくいことが多いです。日常生活の注意点としては転倒や事故に注意し、長時間上を向いたり、整体マッサージで首を捻ったりしないようにして下さい。

重症化すれば手術が必要となり術前の重症度や罹病期間などが手術成績を左右するため手術のタイミングが重要です。脊髄は中枢神経のためタイミングを逃すと手術をしても神経の回復が得られない場合があります。手術は多椎間病変であれば一般的には後方法の適応で頰部脊髄管拡大術を行います。



脊柱管が拡大することにより脊髄の圧迫が間接的に解除される

#### ☆ 手術時間、入院期間、リハビリについて

- ・ 手術時間はスタンダードなものでは3時間前後です。
- ・ 手術後は創部に血液がたまらないようにドレーンを入れ、1～2日で抜去します。
- ・ 術後はカラー固定の上、上向き、横向きはお手伝いします。
- ・ 少しずつベッドアップし標準では2日目に車イスのってもらいます。
- ・ 3日目で歩行訓練を行ってもらいます。
- ・ 頸椎ソフトカラーは標準で3～4週間してもらいます。
- ・ 合併症がなければ入院期間は約3週間です。
- ・ 歩行訓練などのリハビリに長期を要するようであればリハビリ専門の病院へ転院していただく場合があります。